



町民1人の1日当たりのごみ排出量が減りました

開成町では、ごみの減量や、リサイクルを推し進め、環境回復、循環型社会の形成を目指しています。その成果として、町民1人の1日当たりのごみの排出量が、平成24年から7年連続の減少となりました。

これは、町民のみならずごみの減量に取り組まれた成果です。

今回は、ごみの減量をさらに進めるため、今日からできるごみの削減に向けた取り組みを紹介いたします。

今後より一層のごみ減量にご協力をお願いします。

「食品ロス」を減らしましょう!

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられている食べ物のことで、日本全国で年間約646万トン※も発生しています。(※2015年推計値 農林水産省(2018年))

食品ロス削減は、4RのうちのRefuse(リフューズ)、Reduce(リデュース)の取組みにもあたります。

日々の生活の中で、食べものを「計画的に買う」、「計画的に作る」など、食品ロス削減を少し意識するだけで、ごみの減量につながります。



町では、ごみの減量をさらに進めるため、電気を使わないエコな生ごみ処理器「キエーロ」の設置推進制度や、リサイクル品の情報交換登録制度を設けています!

環境防災課 岩根正和 主任主事

4Rでごみを減らしましょう!

「4R」は、ごみの減量のポイントである4つの「R」から始まるキーワードです。「4R」には優先順位があり、これらの行動を順番に取り組んでみましょう。

Refuse (リフューズ:発生回避)

- ごみになるものを買わない、断る

Reduce (リデュース:発生抑制)

- ごみの量をなるべく減らす

Reuse (リユース:再使用)

- 使ったものを廃棄せずにそのまま使う

Recycle (リサイクル:再生利用)

- 使ったものを資源に戻し、再利用する



子ども・子育て支援室 ☎84-0328

- ネグレクト**
食事を与えない、風呂に入れない、病気を放置するなど
- 身体的虐待**
殴る、蹴る、たばこの火でやけどさせるなど
- 性的虐待**
性行為を強要する、わいせつな映像を見せるなど
- 心理的虐待**
無視する、言葉でおどす、DV(配偶者への暴力)があるなど

児童虐待とは
児童虐待は、単に親の身勝手な行為であると捉えられがちですが、その背景には経済的な不安、社会的な孤立など様々な問題が潜んでいます。

決して特別な家庭に起きているのではなく、誰もが陥る危険性があります。

児童虐待は、親などの保護者が、子どもの心身を傷つけ、健全な成長・発達を損なう行為であり、児童虐待に関する相談・対応件数は、年々、全国的に増え続けています。

子どもや保護者のこんなサインを見落としていませんか?

子どもからのサイン

- いつも子どもの泣き叫ぶ声や保護者の怒鳴り声がある
- 不自然な傷や打撲のあとがある
- 衣類やからだがかがいつも汚れている
- 表情が乏しい、活気がない
- 落ち着きがなく乱暴である
- 夜遅くまで一人で家の外にいる

保護者からのサイン

- 地域などと交流が少なく孤立している
- 小さい子どもを家においたまま外出している
- 子育てに関して拒否的・無関心である/強い不安や悩みを抱えている
- 子どものけがについて不自然な説明をする

児童虐待かもと思ったらすぐにお電話ください。



お住いの地域の児童相談所につながります。
※一部のIP電話からはつながりません。※令和元年12月より通話料が無料化されます。

気づいたら迷わず通告を

児童虐待の防止等に関する法律では、国民は、虐待を受けたと思われる児童を発見した場合は市区町村や児童相談所などに連絡することが義務づけられています。通告後の調査で情報が間違っていたとしても、責任は問われません。通告者の秘密は固く守られます。また、匿名での通告も可能です。一刻も早い情報提供が、虐待の深刻化を防ぎます。

出産や子育てに関する相談先があります

子育ての悩みや不安など、どんな小さなことでも気になることがあるときは子ども・子育て支援室にぜひお立ち寄りください。

日頃の悩みや不安を解決できるように一緒に考えていきます。



子ども・子育て支援室 小釜 寛子 社会福祉士

- 子ども・子育て支援室 ☎84-0328
- 町母子健康包括支援センター「ひだまり」 ☎84-0327
- 神奈川県小田原児童相談所 ☎32-8000(代)